

事務事業名 **スクールカウンセラー活動経費**

区分	No	名称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む
施策	1	子どもたちの生きる力を育む
小分類	2	豊かな人間性の育成
主要な施策	3	教育相談の充実
事務事業番号	001	事業開始年度 平成 8 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	教育部	グループ名	学校教育 G
-----	-----	-------	--------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	臨床心理士などの専門家を学校に配置し、児童生徒へのカウンセリング体制の充実を図ることにより、不登校やいじめ等を未然に防止するとともに、それらの問題に早期かつ適切に対応することを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	臨床心理士などの専門家を学校に配置し、児童生徒へのカウンセリング体制の充実を図った。 【事業内容】 ・配置校及び日数（拠点校方式） 1校につき週1日配置 西陵中学校38日 緑陽中学校30日 鷺別中学校40日 拠点校方式とし、必要に応じ市内各小中学校のカウンセリングに対応している。 ・相談件数 平成23年度314件 平成22年度321件 平成21年度293件 ・スクールカウンセラーの勤務形態 1校あたり年31週、週当たりの勤務時間は4時間程度。（平成23年度実績）
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	児童生徒が抱える問題の多様化、複雑化により相談件数の増加が予想されることから、平成23年度より1名体制から2名体制とし、一層のカウンセリング機能の充実を図っていく。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	スクールカウンセラー活用事業実施要項

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	252	88	93	93	93
事業費 合計			252	88	93	93	93

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	相談件数	件	目標値	150	150	150	150	150
			実績値	321	314			
			目標値					
			実績値					

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
臨床心理士などの専門家を学校に配置し、児童生徒へのカウンセリング体制の充実を図ることにより、不登校やいじめ等を未然に防止するとともに、それらの問題に早期かつ適切な対応に努めている。	児童・生徒が抱える問題の多様化、複雑化により相談件数の増加が予想されることから、今後もカウンセリングの機能充実を図っていく。	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 本事業は、北海道教育委員会が行なっているスクールカウンセラー活用事業を活用したものであり、市が事業を実施することは妥当である。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 学校生活において児童生徒が抱える様々な悩みや不安は、いじめ、不登校にもつながりやすく、気軽に相談できる体制を整えることは重要である。
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 本事業は、北海道教育委員会が行なっているスクールカウンセラー活用事業を活用したものであり、市が事業を実施するにあたっては、低予算で行える事業であり、効率性は高い。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 スクールカウンセラーの助言に基づき、学校の枠組みを超えた取組も行なっている。 専門的知識を有するスクールカウンセラーの配置は、児童生徒だけでなく教職員、保護者にも安心感を与えている。
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

<b>維持</b>	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	学校生活において児童生徒が抱える様々な悩みや不安は、いじめ、不登校にもつながりやすく、気軽に相談できる体制を整えることは重要である。 また、児童生徒の問題行動等は複雑・多岐にわたり、専門的な知識を有するスクールカウンセラーの配置は、教職員、保護者にとっても必要なことである。
-----------	----------------------	--

行政評価会議による評価 《Check》

<b>改善</b>	備考	引き続き様々な手法を用いながら学校や家庭、関係機関等と連携し、不登校等の背景にある多様化する課題の解決に向けて取組を進めること。 また、スクールソーシャルワーカー活用に係る補助終了後の不登校対策・教育相談体制について対応策を整理すること。
-----------	----	--